

日本の駅名は馴染んでる？～大阪環状線で考える新駅名～

社会班:中西 育登

要約

近年,日本では新しく駅名が名付けられる際,その駅名が長くなる傾向がある。そこで本研究では,地域住民と外部から来た人間の両者が馴染みやすい駅名がないか調査した。高津高校生約160人を対象にアンケートを実施したところ,地域住民は土地由来の名前に馴染みのある一方,外部から来た人間はわかりやすい駅名を望んでいることがわかった。従って本研究では,両者が馴染みやすい駅名にはその土地由来の名前が付けられることが必須であると結論付けた。

Abstract

The purpose of this study is revealing that whether there is the station name which be easy to familiarate both local residents and people from the outside. The experiment shows that local residents want the name of the land, on the other hand, people from the outside want a name which be easy to understand. So this study concludes that the station name which be easy to familiarate need the name of the land.

1. 序論

近年の日本では,山手線に新しく追加された「高輪ゲートウェイ」駅や,2021年1月1日に日本一長い駅名に改名された「トヨタモビリティ富山Gスクエア五福前(五福末広町)」駅など,駅名が新たに名付けられる際,ネーミングライツ(命名権;駅名を企業の社名やブランド名を名称として付与する事業)の影響もありその駅名が長くなる傾向がある一方,先の高輪ゲートウェイ駅では,駅名撤廃の為の署名運動が行われた。そこで本研究では,地域住民と外部から来た人間の両者が馴染みやすい駅名について,高津高校生を対象に調査した。

2. 研究手法

高津高校 75期1年生2クラス,74期2年生2クラス(うち文系・理系ともに1クラス)の約160人を対象に,2つのアンケートを実施する。

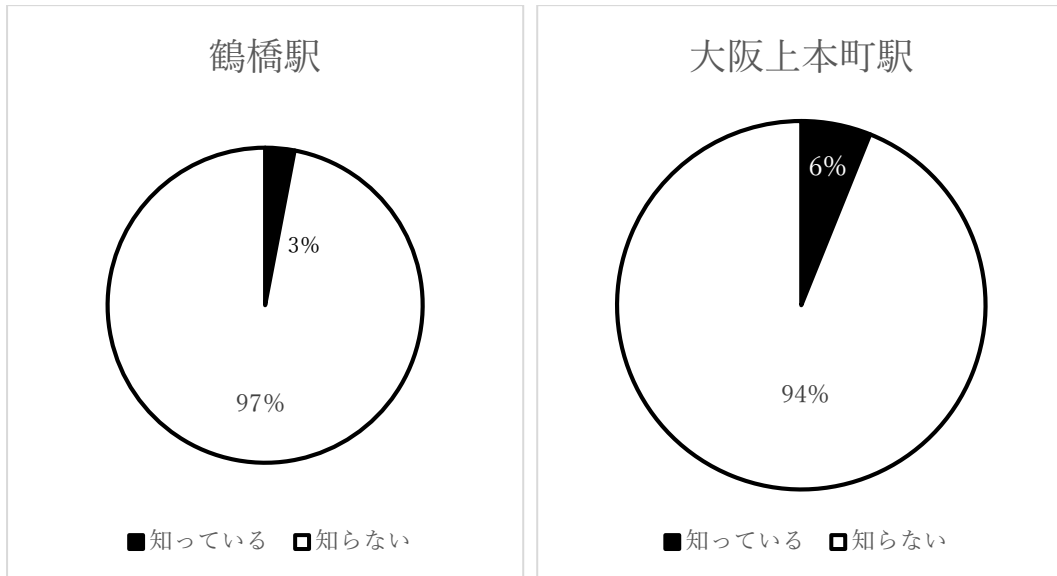
アンケート①;高津高校最寄り駅である鶴橋駅・大阪上本町駅の由来を知っているか調査する。

アンケート②;JR大阪環状線鶴橋駅・大阪駅・新今宮駅・天王寺駅を改称する際,どのような駅名が望ましいか調査する。

3. 結果

2つのアンケートからこのような結果が得られた。

アンケート①；鶴橋・大阪上本町の両駅ともに90%以上がその由来を知らない、若しくは間違
って覚えていた。また、知っている生徒のほとんどが高津高校の近くに住んで
いた。



アンケート②；大阪駅は梅田駅、新今宮駅では新世界駅というように、駅名改称を望む生徒は全
体の約半数存在した。

またその中でも、鶴橋駅であれば鶴橋コリアンタウン駅といった風に、カタカナ
と漢字が組み合わさった長い駅名案が数多く存在した。

4. 考察

土地由来の名前が付いた駅名に愛着をもつ地域住民と、わかりやすい駅名を望む外部から来
た人間の両者の意見の折衷案として近年の駅名は長くなるのではないかと。また、ネーミングライ
ツにより駅名が長くなる場合には、その実施の背景に人口減少からくる資金難といった事情も
あり、土地由来の名前が付かないこともあるのではと推測する。

5. 結論

駅名を新たに名付ける際、地域住民と外部から来た人間の両者が馴染めるようにするには、そ
の土地由来の名前を入れるべきだろう。また、調査中、正式な駅名ではない「副駅名」のネーミン
グライツを行っている鉄道会社があることを知り（例；神戸新交通）、より両者にとってわかり
やすく馴染めることが予想される為、これを今後の課題としたい。

6. 参考文献

読売新聞大阪本社社会部『大阪環状線めぐり』, 1995